

宇内 雄虎の滝探訪 (5. 5)



ホタルの里・宇内 あと1ヶ月もするとこの一帯では蛍が飛び交う



村の中央の田んぼのただ中に有って夜道を示す常夜灯。
その右手の山中に三つの大滝が連なる深い谷がある。



土起こしをしただけで田んぼはまだ乾いている。
ほどなくここに豊かな水が張られる。
その日を皆息を潜めて待っている様だ。



龍のある山中に登って振り返ると螢の里が一望だ。吉備高原の南外れの山並みが続く。

雄虎の滝

矢掛町重要文化財（名勝）

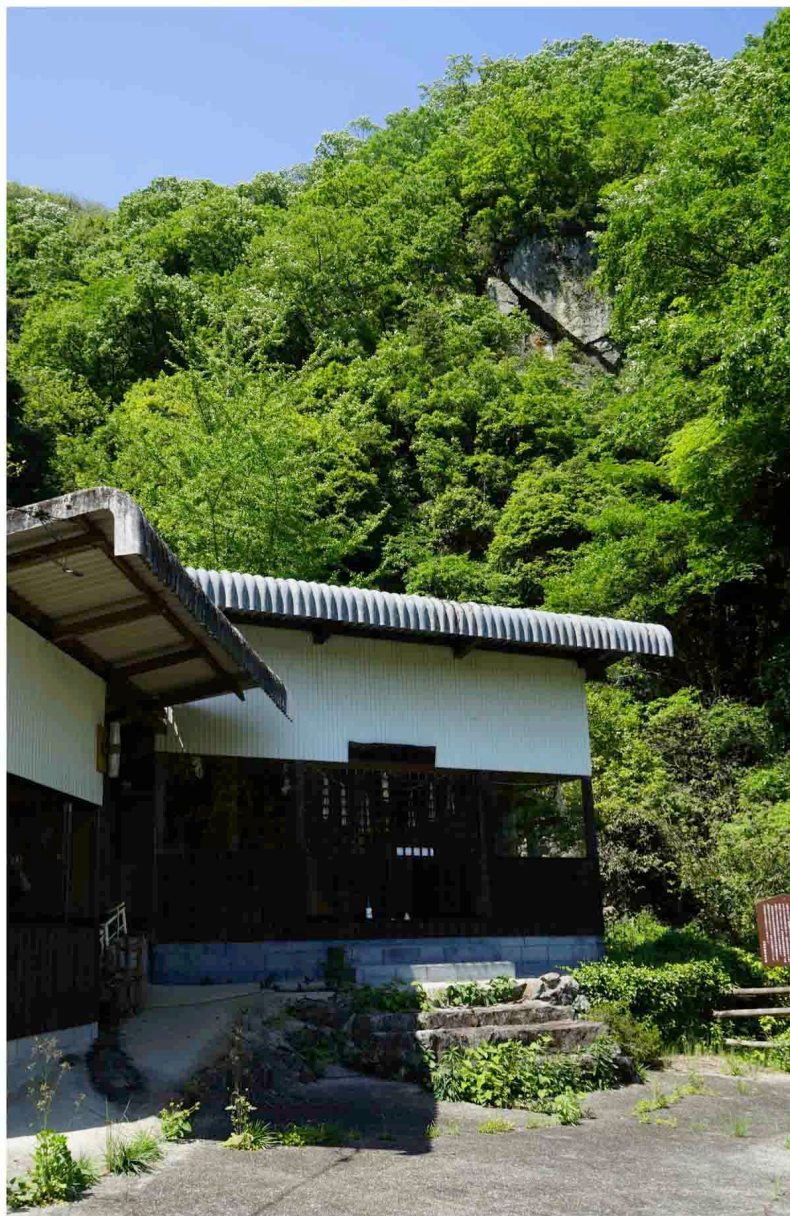
所在地 矢掛町字内

指定年月日 平成二十年二月二十五日指定

この滝は星田川の支流で、三つの滝とそれぞれをつなぐ曲流の川で構成されている。総延長は一〇〇mにおよび、流れ落ちる水しぶきと玉のような帯が交互に織りなし、見事な景観を造りだしており、県南随一の滝といわれている。滝の岩盤は上流が緑色凝灰岩、下流が礫岩という異なる岩石で構成されている点に特徴がある。

雄虎の滝の下流には石鉾山蔵王権現を祀る神社と護摩堂があり、矢掛町内に七つある社のひとつで、付近一帯は行場となっている。この石鉾社からの眺望はたいへんすばらしい。

矢掛町教育委員会



瀧のある谷の入口に石鉾神社がある。

とは言えスレート葺きの屋根のごく殺風景な小屋掛けだ。

しかし、背後の谷に入ると俄然様子は変わり、石鉾の意味が分かる。



谷は狭く、川床は4～5mほどしかない。それが鬱蒼たる雑木におおわれている。
従って見通しも展望もきかないままに、最初の大滝8mが突然現れる。

上流に人家でもあるのか、水は白く濁り清冽ではない。

しかし、固い緑色凝灰岩の川床をうち、跳ね返る瀧の姿はみごとだ。
沢登りから離れて相当な年月が経つが久しぶりの滝と言う感じがする。

直登は無理！



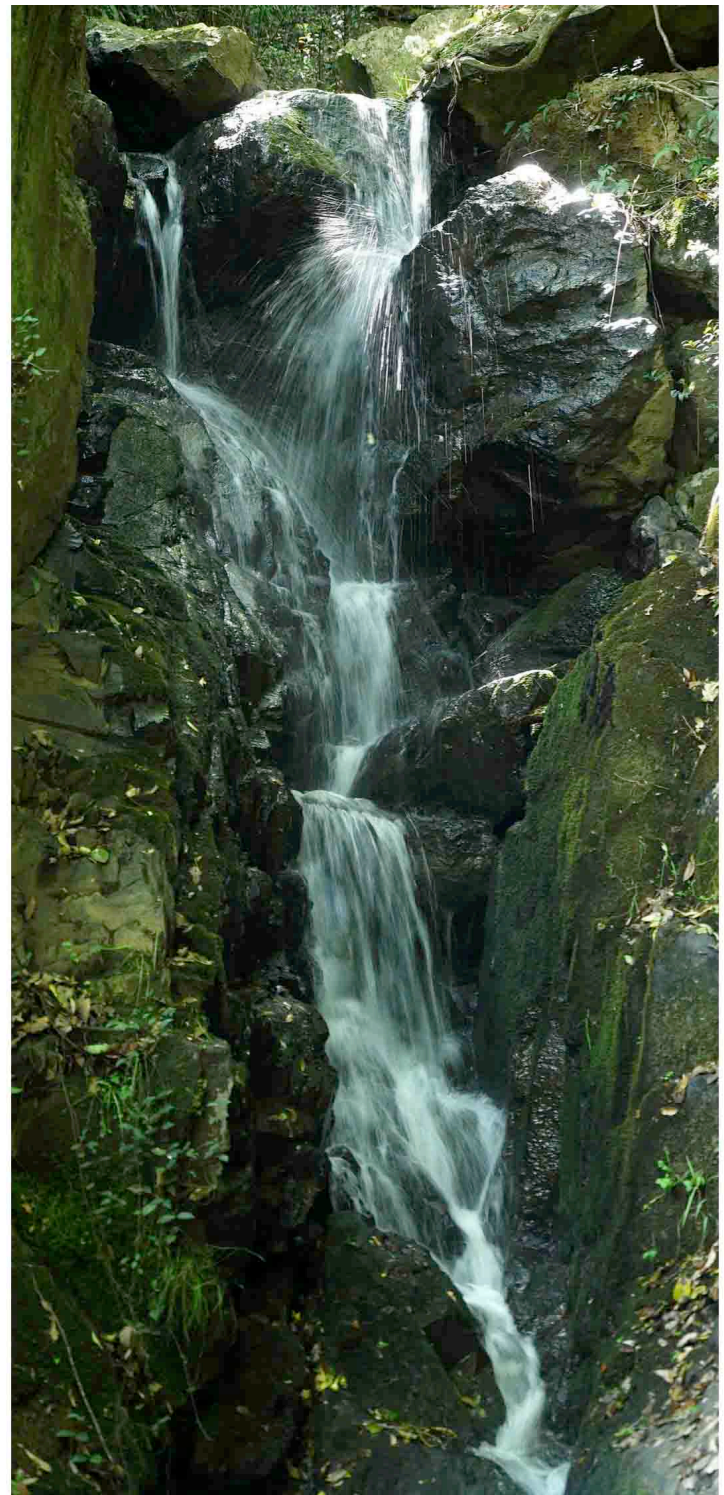
瀧の高巻き道は左側についているが
笹藪におおわれて踏み跡はかすか、
しかもひどく急で、その上に枯葉が
厚く積もり、足を置くたびにずるず
るとずり下がる。あわててあたりの
木の根に手を伸ばして体を支えなけ
ればならない。この時期は山中では
ヘビが大活躍するとも聞いている。
たった一人と言うこともあり夢中で
登り続けた。ふと右手を見ると、真
横に樋を立てかけた様な岩溝があり、
そこを水が正に龍の様になって迸り
落ちている。優に15mはありそう
で、思わず吸い込まれそうだ。これ
が第2の滝だろうか。



足場の悪い急斜面をさらに登る。一体どこに雄虎の滝があるか？と思いはじめた頃、ようやく空が開け、目の前に両側を門の様な岩壁で挟まれたゴルジュ状の滝が現れた。

高さほぼ15m。滝口、中段、下段と3段に分れている。

水が白く不透明で、あたりはじめじめとして滝に入っていく気にはなれないが、暗い谷間で、雄虎の滝と呼ぶには十分な圧倒的な躍動感を見せている。





この滝の上流は天文台のある美星。田園地帯とは言え人家や牧場があるせいで谷の水は白濁していた。他方、尾根を超えた西側には第二星田ダムと言う水がめがある。ここには澄んだ水が一杯。せめてここが水源であればと思うがまあ無い物ねだり。両方を合わせて楽しむことにする。